

平成 26 年 7 月 1 日  
柏田 三千代

## 日本国際情報学会 愛知 (PH) 研究部会

### 第 2 回 勉強会 報告書

愛知 (PH) 研究部会は、研究者個々が取り組んでいる研究や疑問について、参加者の各々が共にその根源にある問題をさぐり真剣に論じ合うことで、参加者相互において知恵の交流を図る目的で会を実施した。

#### 【日程】

平成 26 年 6 月 28 日 12:30~18:00

#### 【場所】

東京都港区赤坂

#### 【内容】

- 12:30~14:30 参加者全員の自己紹介と近況報告 昼食  
14:30~16:00 哲学研究者以外の専門職が「テツガクする」ことは可能か? 栗崎 由貴子  
16:00~16:10 休憩  
16:10~16:45 『成唯識論』の存在論—現象学からの解讀—① 玉置 知彦  
16:45~17:00 休憩  
17:00~17:55 『成唯識論』の存在論—現象学からの解讀—② 玉置 知彦  
17:55~18:00 佐々木 健 先生からの総括  
愛知 (PH) 研究部会代表 磯部千枝 閉会の挨拶

#### 【参加者】

9 名

#### 【総評】

第 2 回愛知 (PH) 研究部会の勉強会では、参加者全員の自己紹介や近況報告が行われ、昼食を取りながら和やかに進められた。まず哲学研究者以外の専門職が「テツガクする」ことは可能か?という問題を提議する発表がなされ、参加者それぞれの立場から “哲学” “テツガク” “philosophy<知を愛する>” について、漏れなく意見が出され、佐々木先生からも御指導を頂いた。日本語の “哲学” という言葉に横たわる多様な側面と可能性に迫る内容であった。また他者の意見により新しい気付きを得る場面もあり、“哲学” について広範に論じる良い機会となった。

次に、『成唯識論』を現象学から解讀するという研究発表では、その発表内容から参加者全員が感じた個々の疑問や感想を研究者へ投げかけ、投げられた疑問や感想を研究者が受け止めるという対話が行われ、次の研究へつながるものになっていた。今回の勉強会も日本国際情報学会らしく、異なる分野の参加者から新鮮な発言があり、広い視野を以て知恵の交流を図ることができた。

